

患者サポートセンターだより



特定・認定看護師特集

私たち看護部は2005年から積極的にスペシャリストナースの育成に取り組んでいます。最初の認定看護師の誕生は2007年、感染管理分野です。その後は求められる分野での認定看護師育成に努め、現在、13領域19名の認定看護師が当院で活躍しています。彼ら彼女らの活躍がより高い実践力を期待される次世代の認定看護師制度へと繋(つな)がり「特定認定看護師が誕生」することとなりました。

医療が日々、専門化・高度化するなか、私たちは、ジェネラリストナースとスペシャリストナースの育成を通じ、多様な地域医療のニーズに応えられるよう努力を続けてまいります。



看護部長
認定看護管理者
山本 美紀

新型コロナウイルス・インフルエンザ

感染対策について

新型コロナウイルス感染症は、11月上旬の段階で第5波が収束しつつあります。ただし、第6波発生やインフルエンザの流行を危惧する専門家も多くいます。すでにしっかり感染対策をしている診療所も多いと思いますが、あらためて感染対策を整理したいと思います。

標準予防策

血液、体液などは感染性があるものと考え、触れる可能性があれば手袋、飛沫を受ける可能性があればサージカルマスクを着用します。また、手袋をしていなくても患者対応後はアルコールなどで手指衛生をします。



感染対策別予防策

◆ 空気予防策



空気予防策をする疾患は結核、麻疹、水痘が代表です。いわゆる飛沫より粒子が小さく、N95マスクを適切に使用する必要があります。新型コロナウイルス感染症については、通常は「飛沫予防策」でよいのですが、気管挿管などエアゾルが発生する場合は「空気予防策」が必要になります。

◆ 飛沫予防策



飛沫予防策をする疾患は新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎など多くの呼吸器感染症が含まれています。これらの対応には通常のサージカルマスクで十分ですが、新型コロナウイルス感染症の患者さんに対応する場合には目の保護のためゴーグル着用も推奨されています。

◆ 接触予防策



接触予防策をする疾患は新型コロナウイルス感染症、ノロウイルス、代表的耐性菌のひとつMRSAなどです。そのため、新型コロナウイルス感染症が疑われれば、長袖ガウン、手袋、帽子などが必要になります。また、脱ぐ時は自身の手などが汚染されないよう注意し、適切に手指衛生します。また、患者さんが触れたものは抗ウイルス作用のある消毒剤で清掃します。

感染対策の継続が重要

あらゆる病原体に対して標準予防策に感染経路別予防策(空気予防策、飛沫予防策、接触予防策)を加えた2段階の感染対策が有効とされています。

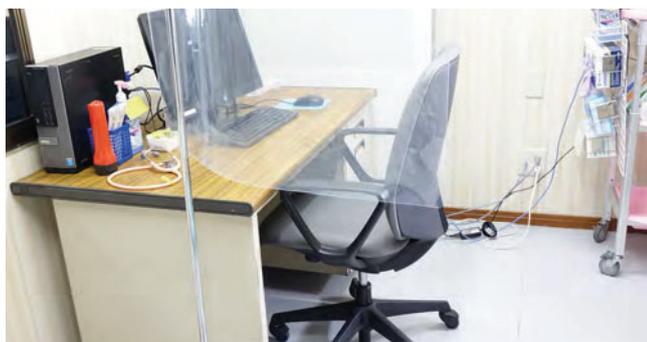
標準予防策が基本で新型コロナウイルス感染症には飛沫予防策+接触予防策、インフルエンザには飛沫予防策の追加が有効です。昨シーズンは新型コロナウイルス感染対策が行きあたり、インフルエンザの流行が抑えられたとの見方もあります。さらに診療所に求められるのは発熱や呼吸器症状のある患者のトリアージ、動線確保、職員の健康管理などでしょうか。ワクチン接種も進んでいますが、感染対策継続は重要と思われま



血液病センター / 血液内科(血液免疫内科) センター長
感染対策委員会 感染対策委員長 中坊 幸晴

当院の感染対策

新型コロナウイルス感染症のメカニズムが知られるようになり、効果的な感染予防策が分かってきましたが、それでも院内へのウイルス持ち込みを完全に防ぐことは難しいと言えます。当院におきましても、これを可能な限り防ぐことができるよう、日々、感染対策に力を注いでいます。



発熱外来 診察室

発熱外来の受診について……当院の発熱外来では、来院する前にPCまたはスマートフォンからの事前問診(AI問診)や、病院建物外に設置された発熱外来スペースでの診察を行っております。感染防止対策上の診療体制を徹底し、患者さんの負担軽減に努めています。

冬に向け感染対策を周知しましょう！

- ◆ 暖房をしても1時間に2回は窓を開けて換気しましょう！
- ◆ 必ず不織布マスクを使用しましょう！
鼻～あごまでしっかり覆って、会話はマスクをつけてから！



医仁会武田総合病院で活動する特定認定看護師 / 認定看護師

認定看護師

患者さん・ご家族により良い看護を提供できるよう、認定看護分野ごとの専門性を発揮しながら次の3つの役割を果たし、看護の質の向上に努めるのが認定看護師です。

実践

- 個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践する。

指導

- 看護実践を通して看護職に対し指導を行う。

相談

- 看護職等に対しコンサルテーションを行う。

特定認定看護師

特定認定看護師は認定看護師資格を取得し、特定行為研修を修了している看護師です。病態の変化や疾患、患者さんの背景等を包括的にアセスメント・判断し、看護を基盤に特定行為を含めた質の高い医療・看護を効率的に提供することが期待されています。

第3期の受講生を募集

当院では特定行為研修の指定研修機関として認定を受け、次年度は第3期の受講生を募集します。
詳細は当院ホームページの募集案内(新着情報)をご覧ください。



募集案内

特定行為

コンサルテーション
窓口

緩和ケア・がん化学療法・がん性疼痛看護

当院の緩和ケアは、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな症状のある患者さんの疼痛・症状の緩和に努め、患者さん視点でQOL(生活の質・生命の質)の改善を目指します。患者さんが「ご自分らしく」過ごして頂けるよう、患者さんご家族に寄り添いながら最適な治療・ケアの選択を支えてまいります。



認定看護師
村井睦美



認定看護師
高橋友紀

認定看護師
種ヶ嶋由起

感染管理

新型コロナウイルス感染症対策からワクチン接種、針刺し・結核接触後の検診などの職員衛生管理、清掃、機具処理などの環境対策、グループ内の他施設への感染対策に関連する教育や相談対応、看護系教育機関での免疫や感染対策に関する教育活動など多岐に渡る活動を行っています。患者さんとそのご家族、職員はもとより、地域の安全を守ることも大事な使命と考えております。感染管理に関わる外部研修などは是非、ご相談をお寄せ下さい。



認定看護師
加藤恵子



認定看護師
加山結香

クリティカルケア

医療・社会のニーズから集中的な治療などのケアに特化した新たな分野として、救急看護と集中ケア分野から創設されました。主に集中治療室(ICU/C-CU)に運ばれる重篤な患者さんを対象とし、急性期の医療だけでなく回復期、慢性期および終末期においても専門性の高い看護ケアを提供しています。



特定認定看護師
森川玲子

特定認定看護師
小片俊輔

集中ケア

集中治療室で急性・重篤な患者さんに適切なアセスメントを行い、重篤化回避の援助を行っています。患者さんが身体的・精神的障害を最小限にとどめられるよう、合併症を起こすことなく少しでも早く回復できるようチーム医療で臨み、患者さんご家族に対しても適切なご支援ができるよう努めています。



認定看護師
岸川志穂

手術看護

手術以外の侵襲がないのが、患者さん・家族様にとっての「当たり前」です。これに限りなく近づけるようシバリング・皮膚トラブル・神経障害などの二次的合併症予防に努め、周術期にある患者さん・ご家族に対し、精神的・身体的・社会的に安心で安全な環境を提供するための看護を行っています。



認定看護師
大津惇也

認定看護師
橋度皓一

救急看護

救急患者さんの緊急度・重症度を迅速に判断し、病態に応じた適切な初期対応を実践しています。主な活動内容は、院内トリアージの実施・検証、急変対応や心肺蘇生法に関する指導、災害初期対応です。また、BLS・ICLSのインストラクターも行っていきます。急変前の患者さんのアセスメントにお悩みでしたら、ぜひご相談下さい。



認定看護師
小牛田和美

心不全看護

慢性心不全は一年以内の再入院が35%と言われます。原因の多くは日常生活管理にあります。生活習慣を変えるのは大変ですが、患者さんがその人らしく在宅で暮らせる方法を一緒に考え、提案していきます。(完全予約制 心不全外来開設中)



特定認定看護師
小笹孝史

皮膚・排泄ケア

創傷(褥瘡・瘻孔・術後創など)、ストーマ(人工肛門、人工膀胱)、失禁(尿・便失禁)の領域をサポートし、問題点のアセスメントを行いながら少しでも質の高い看護が提供できるよう努力しています。(完全予約制 ストーマ外来開設中)



特定認定看護師
中本深雪

認定看護師
半田雅

摂食・嚥下障害看護

当院では摂食嚥下障害に対し、嚥下チームによる嚥下外来(毎月曜日午後:予約制)、NSTなど多職種連携で食支援に臨んでいます。患者さんが食べる楽しみを持ち続けられるよう、入院・外来とも摂食嚥下機能の評価を行っていますので、お困りの方はご相談下さい。



認定看護師
田辺美代子

認定看護師
石田智子

認知症看護

認知症患者さんの入院・治療にあたり、ご本人・ご家族が安心できるような認知症ケアの環境を整えています。ご家族や地域で支える方との情報共有を保ち、「その人らしさ」を大切にされた看護を行っています。



認定看護師
多田智子

脳卒中リハビリテーション看護

脳卒中患者さんの入院初期から合併症の予防に努め、早期離床につながるよう急性期リハビリテーションでの回復をご支援しています。何より、突然の発症で精神的苦痛を受けておられる患者さんご家族に寄り添うよう努めています。



認定看護師
辻井沙智

血液疾患コミュニティーセミナーの開催について

「血液疾患コミュニティーセミナー」が9月30日にオンラインで開催されました。

講演で当院血液病センターの中坊幸晴センター長は「悪性リンパ腫の最新治療」と題し、悪性リンパ腫の治療アプローチなどについて解説しました。



洛東・洛南エリアトータルケア連携 Web セミナーの開催について



翌々日の10月2日には、「洛東・洛南エリアトータルケア連携Webセミナー ～脳・脊椎を中心に人生100年時代を考える～」が開催されました。

講演Ⅰでは、さわい整形外科内科クリニックの澤井泰志院長が座長を務められ、当院脳神経外科の横山邦生副部長が「当院における脊椎脊髄手術の実際」と題し、症例を交えながら症状や問診のポイントなどを解説。講演Ⅱでは、やまな脳神経クリニックの山名則和院長が座長を務められ、当院脳神経外科の山田誠部長が「脳内血管治療の最先端」と題し、脳動脈瘤のステント留置術など近年の治療トレンドについて紹介しました。

医仁会武田総合病院 患者サポートセンター

0120-72-6530

075-572-6530 (直通)

075-572-6276 (直通)

受付時間：月～金曜日 午前 8:30 ～ 午後 19:00
土曜日 午前 8:30 ～ 午後 17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。
※時間外は医事部にて対応いたします ▶ 075-572-6331 (代表)



医仁会
武田総合病院



理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R (減らす、再使用、再資源化) の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進



患者サポート
センター